

会 議 名	平成 29 年度第 5 回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会
開 催 日 時	平成 29 年 10 月 3 日（火） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開 催 場 所	板橋区役所 9 階 大会議室 B
出 席 者	17 人 〔委員〕石垣委員（部会長）、竹内委員、吉田委員、依田委員、中尾委員、 皆川委員、手島委員、小泉委員、田坂委員、戸田委員、長谷川 委員 〔事務局〕資源環境部長、環境課長、環境戦略担当課長、清掃リサイク ル課長、板橋東清掃事務所長、板橋西清掃事務所長
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴可）
傍 聴 者 数	0 人
議 題	・板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定について 計画骨子案について
配 布 資 料	・板橋区一般廃棄物処理基本計画 2025 骨子案
審 議 状 況 （会議概要）	・板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定についての審議
所 管 課	資源環境部清掃リサイクル課計画調整係 Tel3579-2218

1. 開会

新井清掃リサイクル課長：皆さま、こんにちは。定刻より若干早いのですが、皆さまがおそろいですので、第5回清掃・リサイクル部会を、ただ今から開催させていただきます。本日は、委員の皆さま方にはご多忙のところをご出席いただきまして誠にありがとうございます。

まず、審議に入る前に資料の確認をお願いいたします。本日は、机上有りでございます次第と座席表です。事前に配布させていただいております、「板橋区一般廃棄物処理基本計画 2025 骨子案」でございます。それと、机に置いてございます「板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）中間まとめ」です。お手元に過不足はございませんか。もし、ございましたら事務局にお声掛けいただきたいと思います。

なお、本日は平山副部長、櫻井委員よりご欠席の連絡をいただいているところです。また、竹内委員につきましては他の会議等が終了後にこちらにおいでいただくことになっております。

続きまして、議事録について確認させていただきます。第4回部会の議事録を送付しているところでございますが、ご発言いただいた内容等につきまして確認していただき、訂正等がございましたら10月6日（金曜日）今週末までに事務局にご連絡をお願いしたいと存じます。

次に、中間のまとめの公表について簡単にご説明させていただきます。先日、9月14日の資源環境審議会で、委員の皆さまからいただきましたご意見等について可能な限り資料に反映させ、お手元に配付したとおり取りまとめさせていただきました。

今後は10月中旬に区政情報課、区立図書館での閲覧、その他ホームページにより公表させていただきますと思っています。

本日の傍聴者はいらっしゃいません。

それでは石垣部会長、審議の進行をよろしくお願いいたします。

2. 議事

(1)板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定について・計画骨子案について

石垣部会長：どうも皆さん、こんにちは。10月になって一応衣替えということもあってクールビズも終わっていることになるのですが、なかなか暑い日が続いておりますので、皆さん体調に気を付けてお過ごしいただければと思います。

夏前から何度もこの清掃・リサイクル部会で審議を重ねてまいりました、板橋区一般廃棄物処理基本計画第四次について前回、審議会でも議論いただきまして、それを踏まえて今日は一般廃棄物処理基本計画骨子案についてご説明いただくことになっております。

中間のまとめは、前回は「案」でしたが今日お配りされているものについては「案」が取れているということで、今後の施策が具体的に示されているというのはこの計画骨子案です。こちらは「案」が付いて示されているということで、今日はこちらを中心にご説明いただきたいと思います。

では、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

新井清掃リサイクル課長：それでは、まず「板橋区一般廃棄物処理基本計画 2025 骨子案」、こちらをご覧くださいと思います。

今回より、この題名を「第四次」から「2025」と変更させていただいているところですので、かなり変更させていただいています。

部会長から今お話等がございました 9 月 14 日に資源環境審議会で、中間のまとめで最終的な部分を作成したところです。これに今度はプラスアルファの部分に乗せたものが、骨子案ということですが、併せて板橋区の計画物の冊子の体裁に近づけさせていただいているところです。

では、1 枚おめくりください。右のページに「計画の概要」です。今回、計画全体の概要を新たに 1 ページでまとめさせていただいているところです。こちらの内容につきましては、従前のおりですので割愛させていただきます。

右側に中扉を付けさせていただきました。下にこの第 1 章の項目を入れさせていただきまして、裏面に各項目の概要を記載させていただいています。

1 枚おめくりください。2 ページになります。「計画の基本事項」ということで申し訳ございませんが、基本事項の 1「計画策定の背景と目的」というのが黒丸で抜けておりますので、これは後ほど入れさせていただきたいと思っているところです。

それでは、3 ページからになります。内容等につきましてはほとんど変わらないのですが、中間のまとめの 1～2 ページを再編させていただきまして「背景と目的」を第 2 章の国の動向の一部を引用させていただきながら、こちらに持ってきたものです。

続きまして「計画の枠組み」です。中間のまとめでは (3) として対象地域、対象廃棄物ということで一括して記載していたところですが、(1)「対象」、(2)「対象地域」というかたちで 2 つに分けさせていただいているところです。

1 枚おめくりください。4 ページの「計画の位置付け」です。3 行目の中ほどにございますのは、本計画は下図の 2 を文章化させていただいたものです。今まではこの文章がなく、図をお示していたところです。右のページは「計画期間」ということで、このような項目とさせていただきました。

第 2 章「一般廃棄物処理の現状」でございます。1 枚おめくりいただきまして、8 ページになります。第 2 章ということで、こちらに概要を記載させていただいています。右側の 9 ページ、こちらにつきましては変更はございません。

ただ、中段の (2)「国の動向」の①でございます。最後のなお書きのところで「平成 30 年度に策定予定です」という表現が、前回までは「29 年度から策定を開始します」という表現でした。表現を分かりやすくさせていただきました。

10 ページです。(3)「東京都の動向」というところでなお書きの前の部分でございます。「容器包装や小型家電のリサイクルなど、区市町村のさらなる資源化の検討を促進することとしています」と具体的な項目を挙げさせていただきました。

また、その次のなお書きでございます。「29 年 6 月に策定」ということで追記させていただいたものです。

右側のページに移りまして、11 ページは「本区の概要」ということで人口・世帯数の推移等の記載がございます。国勢調査の関係の世帯構成等は、裏面に移させていただいているものです。内容の変更等はございません。

14 ページにつきましては、こちらは従前はごみと資源を一括して記載していたところです。それを「ごみ処理の流れ」「資源リサイクルの流れ」ということで 2 つに分けさせていただきました。

右の 15 ページです。こちらにつきましては資源回収業者・再生利用業者と、真ん中に縦で長く書いてあります。前はここで終わっていたのですが、その後に主な再生品を右側のほうに追記させていただいています。

16～18 ページはそのままです。19 ページです。こちらは、第 3 章「取組課題」です。中間のまとめでは第 2 章の最後に「ごみの 3R に向けた取組状況」ということで記載していたところです。今回につきましては取組課題の最後に取組状況を対比させるという形で掲載させていただいています。

ここで少しミスプリントなのですが、「取組課題」の 1 番でございます。「一般廃棄物処理基本計画（第三次）の実施状況（概要）」と書いてあるのですが、この（概要）は削除をお願いしたいと思います。申し訳ございません。

1 枚おめくりください。第 3 章「取組課題」の概要が左の 20 ページでございます。右の 21 ページに「一般廃棄物処理基本計画（第三次）の実施状況」ということで記載しているところです。

1 枚おめくりください。こちらにつきましても同じものでございます。若干表を広げたり、少しいじらせていただいておりますが、内容等に何ら変更はございません。

1 枚おめくりいただきまして 25 ページ、こちらから「ごみの 3R に向けた取組状況と今後の課題」ということで、ここに入れさせていただいております。

26 ページまでが今現状の取組状況の記載がございまして、それに併せて 27 ページに「今後の取組課題」ということで取組状況、取組課題という名前で記載をさせていただいております。内容につきましては同じものです。

右側の 33 ページになります。こちらで、資源分別とリサイクルということで取組状況がございまして「今後の取組課題」ということになっております。

ここもアの上から 3 行目の「平成 28 年度から『紙パック』」は、従前は「昨年度」という表現がありました。この辺を全部分かりやすく直させていただいているものです。

中段のところで、丸が書いてあるその上の部分で、また書きのところです。これも下から上に持ち上げまして、分かりやすく表現させていただいているところです。

ただ、申し訳ございませんが、こちらの表現につきましては少し読ませていただきます。「モデル回収されたトレイ・ボトル類は、民間事業者を選別を委託し、その 9 割程度が資源化されました。全区拡大に際しても、この分別品質を保つよう併せて協力要請していく必要があります」このような記載があるのですが、これですとちょっと分かりづらい面がございます。

これは区民の皆さま方に協力をお願いしていくというようなことで、柔らかい表現に少し訂正させていただく予定でおります。今回の会には間に合いませんで、申し訳ございません。

1 枚おめくりください。右側の 35 ページ、こちらのほうは新たに追記させていただいているところです。（4）「収集運搬・中間処理・最終処分等」です。

その中の①「取組状況」の「収集運搬体制」で、その後に丸としまして区で収集しないごみ、ごみ処理の手数料等を記載しているのですが、国の策定指針等にも具体的な現況等を掲載するように促していました。

そういう面で、私どももそれぞれの項目につきまして数字で表せるものについては数字で表しているというかたちで、新たにこの表 5 から始まりまして後ろのほうの表 14 まで、こちらを入れさせていただいているものでございます。

まず、区で収集しないごみということで内容等につきましては左側にありまして、具体的な品目例を右側に載せさせていただいております。

併せまして、ごみ処理手数料です。ごみ処理手数料は家庭系、事業系それぞれ区で収集するもの・持ち込むもの・粗大ごみ関係・臨時ごみ、そういったものを分かりやすくこちらで表にさせていただいています。事業系につきましても同様です。

表 7 は、ごみ処理券の価格でございます。事業系につきましては 1 セット 5～10 枚ということでまとめて販売ということになります。ちょうど 10 月 1 日からごみ処理手数料も改定されております。新たなものを載せさせていただいているものです。

下に、家庭の粗大ごみの記載がございます。こちらにつきましては、処理券自体は同じ 200 円券と 300 円券がございますが、こちらも料金が改定されています。

1 枚おめくりいただきまして 36 ページです。「びん・缶の選別施設」です。びん・缶につきましては平成 18 年 1 月から板橋区のリサイクルプラザで選別、資源化を行っているものです。リサイクルプラザの概要を簡単に記載しています。処理能力としましては 1 日当たりびん 20 トン、缶 10 トン。処理方式につきましては、びんは選別、缶は選別のうえ、圧縮を掛けるというものです。

ウの二十三区清掃一組です。「中間処理施設の概要」ということで可燃ごみの処理につきましては主に板橋清掃工場に搬入し、焼却処理および熱回収を行っているものです。

清掃工場の概要は以下のとおりです。ごみ焼却炉・灰溶融炉・余熱利用ということで 3 つございます。この真ん中にごございます灰溶融炉につきましては、平成 28 年 4 月から休止という状況です。余熱利用につきましては隣接します高島平温水プール・熱帯環境植物館・高島平ふれあい館、こちらに供給しているものです。

右の 37 ページは、「不燃ごみ・粗大ごみの処理」です。不燃ごみにつきましては、収集後は北区の堀船清掃作業所で輸送船舶に積み替えられまして、東京湾の中央防波堤埋立地内にある中防不燃ごみ処理センターに搬入されて処理しています。

なお、現在、板橋区では資源化施設に搬入しまして選別しているもので、最後にいろいろな鉄製品や小型電化製品等を抜いた後に残る残さのみ北区の堀船に搬入しているところですので、そこから中防に輸送することになっています。

中防不燃ごみ処理センターの概要は以下のとおりです。処理能力につきましては 2 基ございまして 1 時間当たり 48 トン、処理方式は横型回転衝撃式、選別品目については鉄・アルミニウム・不燃物・その他ということになっております。

粗大ごみです。粗大ごみにつきましては西台の中継所を経由して中央防波堤内側埋立地内にある粗大ごみの破碎処理施設に搬入され、破碎・減容化されるものです。

内容はこちらに記載のとおり 2 基ございまして 1 時間当たり 27 トン、こちらは縦型回転衝撃式でございます。

最終処分場ということで焼却施設や不燃ごみ、粗大ごみの中間処理施設から出る残さは、最後にごみが出るものです。こちらにつきましては新海面処分場、中央防波堤外側埋立処分場に委託処分しているものです。

概要は以下のとおりで、敷地面積 480ha・埋立面積 319ha・埋立期間は平成 10 年から実施をしています。

38 ページです。オの「清掃・リサイクル事業経費」です。現在、板橋区のほうで収集運搬経費の関係の推移をこちらのほうに記載しているところがございます。左から「人口・収集量・収集運搬経費・1kg 当たりの経費、区民一人当たりの経費」ということでそれぞれ単位は上の括弧書きの中にご覧いただけます。

平成 27 年度は、54 万 9571 人、収集量は 12 万 3775 トン、収集運搬経費が 21 億 3210 万円でございます。1kg 当たりの経費が 17 円 20 銭、区民一人当たりの経費としましては 3,880 円ということです。下に棒グラフ、折れ線グラフがございますが、これは上の数字をお示ししたものです。

カとしまして「事業所への指導」ということで、区では事業用途に供する延べ床面積が 1,000 ㎡以上の事業所、こちらは従前のとおりです。

39 ページです。こちらの「今後の取組課題」等につきましては従前のものですので割愛させていただきます。

42 ページは第 4 章の概要を記載しているところです。右側の 43 ページは「基本理念・達成目標」等です。こちらにつきましては、ご意見をいただいた区の実況が 3 行目辺りからございます、こちらに取組状況等を入れさせていただいたものです。

それと、エコポリス板橋の基本的な取組ということで、「エコポリス板橋」環境都市宣言の宣言文をこちらに記載させていただいております。第三次の計画では、資料編に記載していたところですが、今般はこちらに持ってきたものです。下に「達成目標」ということで、達成目標 1～2 という記載をしています。

44 ページでございます。中間のまとめでは達成目標の下に「基本方針」というものを記載させていただいております。これを縦に左の 1～6 番のものをこちらに入れまして、前回は右のページに移りまして上から下に向けた矢印で計画の体系ということで取組指標による進行管理を行っているということで、この 5 つの基本計画をお示しして、その他に生活排水処理基本計画というものがございました。これを見やすく一連のページ、43～44 ページにくるようなかたちで左から右にということで移しているものでございます。

45 ページの「計画目標」につきましては変更ございません。1 枚おめくりいただきまして 46 ページになります。実は 45 ページの目標値、こちらに関してどうなのかということでコラムをここで使わせていただいているものです。

「ごみ減量へチャレンジ！」ということで「1 人 1 日 91 グラムのごみの減量を！」というもので、こちらを具体的にお示しさせていただいているものです。689 グラムは 27 年度の実績でございます。こちらを 37 年度の目標としましては 598 グラムで 600 グラムを切るということです。では、598 グラムというのはどんなものなのかということでは、キャベツなら半玉分、トイレットペーパーは 2 個分、中とじ週刊誌は 1 冊分、このようなかたちで分かりやすい重さということでお示しさせていただいているところです。

「できることをこつこつと、いろんな工夫をしてみよう！」ということで、生ごみも水分を切るためにぎゅっと絞って一絞りということですか、簡単に行えるようなものをこちらに記載させていただいていたものです。陶器、古着、使えるものはリユースを、店頭回収を利用してとい

うことで、こちらのほうにコラムを付けているところです。

それでは、47～48 ページに移らせていただきます。第 5 章「ごみ処理基本計画」でございます。ここから前回に比べて若干充実させていただいているものです。

こちらは第 5 章「ごみ処理基本計画」ということで、それぞれ概要にしたものに記載しているところです。5 つの個別計画ということで「情報発信・普及啓発」から「適正処理・処分計画」というところまで 5 つございます。

こちらは右のページに移りまして「情報発信・普及啓発計画」というところです。1 番「情報発信・普及啓発計画」の中でのそれぞれ具体的な展開する項目ということで、(1) ～ (9) まで記載がございます。なお、ここの網掛けの部分につきましては重点的取組ということになっております。

下に「取組の指標」ということで掲載させていただいております。もちろん指標として出せないものもあるのですが、出せるものにつきましては、項目としては出させていただいているものです。

50 ページでございます。(1) ～ (2) につきましては中間のまとめの部分に記載させていただいているものです。その他にも (3) ～ (9) まで、それぞれ記載しているところです。

いろいろお話等にも出てまいりました単身世帯や外国人世帯への普及啓発、情報発信媒体の充実というところを強く進めていきたいと思っています。

その他にも (9) としまして、これはちょっと表現が限定的な書き方になっておりますので次回までに訂正を掛けたいと思うのですが、「集中的な情報発信の実施」という記載が項目として挙がっているのですが、この四角の枠の中では「トレイ・ボトル類の分別収集の全区拡大」ということで限定的な書き方をしてしまいましたので、ここの部分につきましては若干、後ほど訂正をさせていただきたいと思っています。

52 ページは、2 番目の「発生抑制計画」です。こちらにつきましてもフードドライブ、リサイクルプラザの来館者数、いたばしエコショップの認定数というところで取組の指標を出させていただいているものです。

「(1) 家庭系生ごみ減量・資源化の促進」、こちらにつきましては前回の記載のとおりです。右のページの (2) ～ (4) 番を新たに入れさせていただきまして、(5) の「リサイクルプラザを拠点とした活動の継続」というところは前回お示しのとおりです。

最後に、「家庭ごみ有料化に関する調査・検討」というところです。まだ具体的な動きということではありませんが、引き続き検討を継続していくというものでございます。

54 ページです。ここに食品ロスの関係、このコラムは前回お示ししたとおりです。

右のページは「再生利用促進計画」です。トレイ・ボトル類の分別収集の全区拡大、古紙類の分別収集の徹底、不燃ごみ・粗大ごみからの資源回収、これを重点的取組としまして、その他に拠点回収、集団回収、商店街・オフィスリサイクル、販売店回収、これらの促進充実を進めていくものです。

56 ページです。それぞれ皆さま方が取り組みやすいというところで、いろんな部分でこうした一番大きく関連するような内容が多く載っております。それぞれの項目につきましていろいろな項目の下に事業をぶら下げているところです。

58 ページです。こちらはプラスチックのリサイクルということでコラムを掲載させていただ

ております。こちらは第4回部会を開催のときに補足資料ということで別にお出しした、そちらのものをベースにしまして掲載しているものです。ごみの約4割を占めるプラスチック類ということと、プラスチックのリサイクルは大変で大体リサイクルと同じぐらいの残さが出てきてしまう。化学リサイクル、ケミカル、こういったものもそれぞれ高炉還元剤・コークス炉原燃料・合成ガス、その他にも残さということで焼却・熱回収を行っているものです。

だから発生抑制（リデュース）を進めていきたいと思いますということで、記載させていただいたものです。

59 ページにございます、「収集運搬計画」ということで「(4) 水銀の回収ルートの確立」、「(7) 事業系ごみの減量・資源化、適正排出の指導」というところで。これを重点的取組として、それぞれ「集積所の美化推進」から始まりまして「低公害車の導入推進」というところまで全部で10項目でございます。下に「取組の指標」等を記載してございます。

1 枚おめくりいただきまして、それぞれの項目の中で事業等を記載していただいているところでございます。こちらのほうにつきましても「集積所の美化推進」から「不法投棄・資源の持ち去り」、私どもも古紙持ち去り業者が多くございます。こちらのほうに力を入れるということです。

次の(4)です。「水銀の回収ルートの確立」ということで今後、水銀の回収等につきましては、蛍光灯も含めて適正なかたちで収集し、処理をしていくというふうに私どもも計画しているところなんです。

その他、事業系のごみ関係もこちらに記載させていただいているところです。

62 ページです。最後は5番の「適正処理・処分計画」です。こちらは災害時の対応を重点的取組としている他に、(1) 番としまして「最終処分量の削減」、(2) 番として「熱エネルギーの有効利用」を記載させていただいたところです。

この矢印はここだけ下向きですが、これはもう排出量を一生懸命減らしていくというところで、下向きになっています。

「最終処分量の削減」「熱エネルギーの有効活用」、それと「災害時」ということで板橋区におきましても早急に災害廃棄物の対策につきましての計画を立てていく予定でおります。

右側の63 ページの下でございます。こちらのコラムは東京都の最終処分場ということで今現在、東京湾にどれだけの処分場があって、全部いっぱいになりまして今のところ⑤と⑦番、中央防波堤外側埋立処分場と新海面処分場、もうここの2つだけというような状況をお示ししているところでございます。

1 枚おめくりください。右のページが第6章「生活排水処理基本計画」でございます。また1枚おめくりいただきまして66 ページ、第6章の概要を記載しているところです。右側67 ページ、その次の68 ページにつきましては前回お示ししているとおりです。

69 ページの第7章以下につきましては、これも中間のまとめと同じ資料をこちらに掲載しているということです。私の説明は以上です。

石垣部会長：ありがとうございました。これまでの、第4回までの議論を踏まえて具体的な案が
お示しいただけたと考えています。皆さまのほうから何か。今更これをひっくり返すような意見
というのは多分出ないとは思うのですけれども、私の言ったあの意見は一体どうなったのか、そ

ういうところにも。あるいはもうちょっと付け足したほうがいいのではないか、そういった情報についてご意見をいただけるようでしたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。お願いします。

手島委員：49 ページの「子どものころからの環境教育の充実」、これについての具体的な内容が25 ページとかいろんなところに書いてあるのですけれども。

前回私が申し上げましたように子どもが日常的に教室、学校内でのごみの処理に対する教育ということは教育委員会とお話し合いいただくということだったのですけれども、何ら進展していないのですが、この件についてはどうでしょう。

すみません。私があのとときにちょっと言葉が足りなかったのですけれども、例えば子どもたちが使う教材などは多分教室や予備室で段ボールから出して持って行って、子どもたちにはその現物を渡していると思うんです。そうではなくて、そのまま教室に持って行って子どもたちに開封させ、それできた段ボールはどうやって処理するかということも私は教育の一環だと、そのように思っております。また、いろいろな教育の一環が日常的に生かされる問題はあると思いますけれども、それについての踏み込んだご意見を伺わせていただけたらと思います。

石垣部会長：どうぞ。

新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。今のお話にございますのは、49 ページの1の(2) ということでございます。こちらのほうにつきましては1枚おめくりいただきました50 ページの上から2つ目の項目の「(2) 子どものころからの環境教育の充実」ということで、子どもたちがごみの減量やリサイクルに配慮した生活の在り方について体験しながら学べるよう環境整備を行っていくということで記載させていただいております。

具体的に教育委員会ともう少し調整しながら今お話しいただいたようなかたちで実際に実体験と言うとおかしいのですが子どもたちがそれを行う、資源として分けるということをやっているようなことで、できる限りそのようなお話で教育委員会とも調整してまいりたいと思います。

ただ、申し訳ございませんが、ごみの出し方になりますと学校で出すごみと、家庭で出すごみの出し方が若干違ってくる部分もございます。

その辺も踏まえた上で教育委員会とも協力しながら、もう少しこちらの部分を書けるような段階までにいけばそのような記載をさせていただきたいと思うところです。ありがとうございます。

手島委員：すみません。ちょっとしつこいようなのですけれども。確かに、家庭ごみと学校でのごみは違うと思うのです。でも、運動会などの後始末とかいろいろなことはもっと子どもにやらせてもいいと思います。

確かに、いろんなリサイクルプラザや何かの教育イベントがあります。これは継続的ではない、1 年のうちの単発的な本当にイベントと言うとちょっと軽くなって大変申し訳ないのですけれども、もうちょっと子どもの中に染み込むような教育ということをしていただけたらありがたいと思います。これについてのご意見は、今伺いましたので結構でございます。

石垣部会長：特に、ございませんか。大丈夫ですか。いかがでしょう。

新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。確かに、そのようなことで実際は本当に子どもたちがやるというのが一番大事なのかと思っているところでございます。もちろん教育課程等がございましてどのように動けるか分からないのですが、できる限り私どものほうから申し入れをしながら協議をさせていただきたいと思います。

石垣部会長：それは、ここに書き込むことはちょっと難しいことなのかもしれませんが、例えばあちらの課からすると、教育委員会には恐らくいろんな担当課からご意見というか、こういうこともやってくれというのを教育の現場にお願いされることは多いと思うのです。

そういう場が、適切な場で適切な時期に行われるかというのは結構重要で、例えばそんなことを言っても来年の授業の教材はもう決めちゃった、カリキュラムを組んじゃったとなってからでは遅いです。

環境分野だけではないと思うのですが適切な時期にそれぞれの板橋区内で、区役所の中でそういうのがきちんとコミュニケーションが取れるチャンネルがちゃんと開いていればいいのだろうなというところはちょっと危惧というか、そういう適切な時期に適切な申し入れができるような関係性を築いていただきたいと思っています。

それがなく何となく毎回会議の度にそういうご意見が出て、じゃあ、また考えますというこの繰り返しだけになってしまいますので。

他に、ご意見はいかがでしょう。第４回までに、いろいろなご意見を皆さまからいただいたと思いますが。

依田委員：ちょっといいですか。

石垣部会長：はい。どうぞ。

依田委員：今の幼稚園とかそういうところということもありますけれども、こういう問題は家庭の中でお母さんがもう生まれたときからというか、小さいときからごみはこういうふうになくしてはいけないと家庭生活の中で教えるということが一番大事なことで私は思います。

学校とかそういうところでただ教わったということよりも、その家庭、家庭でちゃんときちんと決まり事を教えれば、そういう子どもにちゃんとなります。

私なんかは、もう小さいときからそういういろんなことをやって幼稚園の先生にも「どういう育て方をしましたか」と言われたこともあります。やはり家庭の中でちゃんときちんとこういうふうになくちゃいけないということを教えていくことが、すごい大事なことで私は思っております。

手島委員：すみません。それに関連です。今まではそうでした。その家庭でそういう教育を放棄しているということもなかったのが昔です。でも、今はそういうことを家庭でできないから、こういうごみの問題も起きているのだと思うんです。

親の年代によって家庭の中で親がしていなかったら子どもも分からない。だから、どこかで。本来は家庭ですべきことですけれども、それがなされていないので今日の現状があるわけですから、それはもう仕方ない。家庭、学校で事有るごとにチャンスを与えるということが望ましいのではないかと私は思っております。親の年代によって違うと思います。

依田委員：いや。でも私の子どもたちもそういうようなことも結構教えて、孫もきちんとやっていましたし。

また、今は孫が、おなかが大きくて赤ちゃんを産むのですけれども、やはり私は何事も家庭の中がすごい大事なことだと思います。

小泉委員：多分、手島さんもそれが分かっているうえの話であって、それがやっぱりできない家庭もあるのも事実で。

手島委員：そう。それはもちろん学校でやることも、幼稚園でやることもいいと思います。

小泉委員：そういう面では学校も町も含めて町のクリーン作戦とかに中学生・小学生・幼稚園、大人も皆来て、そういうので町をきれいにしていくというのもそうだし。うちでやっていけばいいというものじゃなくて、やっぱりみんなで外にもこういうふうやっていかなくちやならないということをやっていく中で、できない家庭にはフォローになったりする部分というものもあるのかと。だから全員が全員できれば問題ないと思うが、やはりいろんな社会状況の変わった中で親でもどこに重点を置いていくかというのは親の考え方の問題があるわけじゃないですか。

今は共働きの世帯が増えてきている中で優先順位をどこに持つとか、そういうのが出てきている中での今は過渡期だと思うのです。だから、それは周りも含めてやっていくという。

依田委員：そうですね。それも大事な。

小泉委員：そういう部分で、言っていることは一緒だと思うんです。

石垣部会長：しつけ、子育て論とか、そういうところになってきますとなかなか難しい部分ですね。区がどこまで口を出すんだ、あるいは環境分野の課の方がどれだけ口を出せるかというとなかなか難しいことになってきてまして。ただ、問題意識としてはすごく重要なことだと思います。

ただ、一つだけ言えるのは、区が教育として何か口出しをできる部分というのはやはり区の持っている施設、保育園・幼稚園・小学校・中学校ぐらいまでだと思うんです。それより下あるいは家庭のこと、あるいはそれより上にいってしまうと区が何かプログラムを組んで教育そのものに口出しできる機会というのはやっぱり多くないと思います。

そういった意味で、学校の中でできることを今やっていただいて、それは決して家庭をおろそかにしていいということではないというのは理解をしています。ありがとうございます。

もし補足がありましたら。大丈夫ですか。どうぞ。

新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。今お話しただいて、本当に両方ともそのとおりかと思っているところでございます。やはりライフスタイルが変わってきているというのが今の現状かと思っているところでございます。

ちょっと前であれば、しつけは家庭でというようなところがあったかと思います。身を美しくするということで「躾」ということがございますので、本当にすてきな言葉だというふうに思っているところですが、やはり実態はなかなか難しいというところでございます。

ですから、私どものほうでできるようにところがあれば、それにつきましては申し入れていきますし、もちろん教育委員会のほうもそのようなかたちで考えているのではないかと思っているところでございます。ありがとうございます。

宮津環境戦略担当課長：少し補足をさせてください。

石垣部会長：はい。お願いします。

宮津環境戦略担当課長：環境戦略担当課でエコポリスセンターを所管しております。

また、先日会議のときに教育委員会にお話をというようなお話は私のほうでさせていただいたところでございます。教育委員会のお話は事務局のほうに伝えてありますので、今後は調整になるのだと思うんですけれども。

今は実際、環境教育推進プランというのを私は手元に持っていて、この中で小学校3～4年生で「未来へ」というテキストを使って実際にどんなかたちでごみのリサイクルについて子どもたちが学んでいるのか小さいのですが載っていますので、回してみますのでご覧になっていただいて、こんなかたちで勉強しているというのを把握していただければありがたいというのが一つです。

それから、私どもはエコポリスセンターを所管してございまして、こちらでも出張する、あるいはエコポリスセンター自体でごみの学習みたいなものも子どもたちにやっております。リサイクルマークについてどんな意味だろうということをやったり、実際にごみを使ってどんなふうに分別したらいいんだろうというのもやっているのです。

今回は計画の中にも50ページの(2)のところですが、先ほど新井課長から話がありました、子どもの頃からの環境教育の充実というところで少しエコポリスセンターや学校のことも書かせてもらいましたが、この部分できちんと対応しながら子どもたちの教育に取り組んでいければと思いますので、どうかご理解いただければというところでこのテキストがどんなものかというのをちょっと回しますので、皆さんでもしよかったです。すみません。

石垣部会長：ありがとうございます。ご覧いただきながら議事は続けられればと思いますが、他にご意見等、ご質問等があればお願いします。

吉田委員：家庭への教育ということについては、(8)のところに「情報発信媒体の充実」がありますよね。結局、ここでのそういう出し方というのが家庭内にちゃんと普及されていけば、自然と子どもにも教育がいくのではないかと思うのです。

だから、そこら辺も含めてやれば進んでいくのではないかと思いますのですけれども。

新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。その普及啓発の部分ということで、なかなかそれが浸透していないのではないかと考えているところでございます。ですから、やはりそういう発信の部分も強めていきたいというふうに思っております。

皆さま方にそれを全部分かっていただければ、ご家庭でそういうような動きになればお子さんも必然的にそういう流れになるというお話だと思いますが、これは実際に本当にそのとおりだと思っております。

なるべく分かりやすく簡単な部分も含めて、皆さま方に分かるようなかたちでの普及啓発を行っていききたいと思います。

手島委員：すみません。ごめんなさい。こだわるようで申し訳ないのですけれども、この3～4年の教育は何年前からなされているのですか。

宮津環境戦略担当課長：私のほうでは何年前からかは把握し切れていないところです。もしかしたら、そこに書いてあるのかもしれないのですけれども。何年前かは、今日は教育委員会の人が出ていないので。

手島委員：書いていないんですよ。結局、日常的にするということの大切さをもうちょっと授業で教えていただけたら。日常です。

ですから、エコポリスセンターに行って見学し、お話を伺い、3～4年で勉強する。でも、子どもたちは1～6年の間にいろんな場に遭うわけですね。そのときに年齢に応じたごみの処理方法というものを、日常的に学んでいただく機会があればいいのではないかと。

今、家庭の教育力というのはいろんなパターンの家庭になっていますから、結果が今日だということを私は思っております。

宮津環境戦略担当課長：ありがとうございます。確かに委員のおっしゃるとおりでございます、学校の中でも今は3～4年生のときの学習のテキストのご紹介でございましたけれども、実際にはもうちょっと日々の学校生活の中でも恐らく教育が進んでいかないとできないことだと思いますし、先ほどお話がありましたベースの部分は家庭での部分というようなところがあると思います。

実際に区の計画、施策の中でどんなことをできるだろうかというのを書き込むのがこの部分だと思いますので、皆さんのその思いを反映させてこの計画の中に位置付けるとしたらさらにどんなことが書き込めるのかということについては、またあらためてちゃんと協議をさせてもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

手島委員：よろしくお願いいたします。

石垣部会長：他はいかがでしょうか。かなり内容的には丁寧に作られて準備されていると思いま

すので、あまり特段のご意見、ご質問はないのかもしれませんが、いかがでしょうか。

手島委員：すみません。61 ページの「(9) 収集・運搬の効率化」で、「処理経費を管理し、区民への情報提供を定期的実施」、これはどういう方法で定期的実施なさるおつもりでいらっしゃいますか。区の広報ですか。

小泉委員：これは出しています。

手島委員：区の広報ですか。

小泉委員：広報とか、区の発表している決算資料とか。

新井清掃リサイクル課長：いろいろな情報提供というのは、やり方があるかと思います。その中でも一応、今私どもで考えているのは『かたつむりのおやくそく』の中に記載している部分を使いながらお示ししていきたいと思っているところでございます。

その他にはホームページ等もございますので、これを掲載するということで。これが『かたつむりのおやくそく』なんです、この裏の、後ろのほうにございます。こちらのほうに事業の主要数値をお知らせしますということで出しております。そういったものを使いながら皆さま方にお示ししていきたいと思っているところでございます。

手島委員：すみません。『かたつむりのおやくそく』というのは数年頂いていないのですけれども。

小泉委員：区の広報にも出ていたような気がするんだよね。

新井清掃リサイクル課長：はい。ホームページにも掲載しておりますし、広報にも簡単に掲載等はさせていただきます。

また、今のお話の中で『かたつむりのおやくそく』が 25 年に全戸配付した後はしていないというところもございます。それにつきましては引き続きうちのほうも要望を出しているところでございまして、なかなか実現というところまではしていないのですが、どうにかできるようにしていきたい。すみません。

それと私どものほうで今考えているのは、スマートフォン関係というのはアプリを入れまして、そういうのでもいろいろこういうごみの関係ですとか、そういう情報提供をしていきたいと思っているところでございます。

小泉委員：ただ、正直言って取り込まない人というのは、どんな形式でも取り込まないのも事実だと思うんです。

だから費用対効果の部分でホームページに載っていると、かのやつというのは年に 1 回、清掃リサイクル課のやつは特集で広報に出ているはずなんです。区のほうも定期的に発表している

部分もあるので、そこをもっとかゆいところのどこまで届くかというのはやっぱり考えていかないと、それはお金が逆にかかってきちゃう部分であって。

正直を言っちゃうと、『かたつむりのおやくそく』というのは、本来皆分かっていることなんだけれども実施するか実施しないかの部分なんだと思うのです。

それを実施させるのはやっぱり周りの目とかそういう地域環境、あとは清掃事務所の指導とか、そういうのを地道にやっていく他はないんだと思う。だって、当たり前のことなんだから。

手島委員：でも結局、この前に私は申し上げたんですけれども、これは書いてごみの集積場所に置いていただく。電柱みたいなところで、書けない場所もありますよね。書けるところでは書いて置いていただくのが一番周知徹底するんです。

ですから、この定期的に情報提供うんぬんも大事ですけれども、一番ごみの出すところに今日はこうこうと割と細かに書いていただいたほうが出すほうの人も気が付くのではないかと思っています。

新井清掃リサイクル課長：これが『かたつむりのおやくそく』なんですけど、これも表紙のところには資源・可燃・不燃・粗大ごみというようなかたちで記載等がございます。あとは、これに本当に具体的な絵で示されるようなものが入れば一番いいかと思うところがございます。

いずれにしても、情報を取るのにどれが一番多いのかという場合には集積所の看板というような結果も出てございますので、その辺も含めていろいろな収集方法を考えてまいりたいと思っています。ありがとうございます。

依田委員：私はすごく気になっているんですけれども、川越街道です。三菱銀行の裏手、あとは西町の郵便局のちょっと前のところはいつ行ってもごみが散乱してしまっていて、もう本当に汚いです。

川越街道というのは自動車も通りますし、板橋区じゃない方も通りますよね。もう本当にごみだらけという感じ。うちのほうの商店街はそういうことはないんですけれども川越街道側、結局は裏側です。もう、いつ通ってもごみだらけという感じなんです。

ここの60ページの「集積所の美化推進」と書いてありますけれども、ちょっとあそこを一遍見てほしいと思います。もう本当に汚くて、ここを通るのは何か嫌だなという感じがいつもしています。郵便局のちょっと手前というか、あそこの信号があるところね。

石垣部会長：どうぞ。

木村板橋東清掃事務所長：ありがとうございます。ただいま教えていただいた件ですが、後ほど状況を確認させていただき、どういった対応ができるか。

例えば、貼り紙対応など、現場でよく確認させていただいて、周囲の方々と考えていくような機会を作っていきたいと思います。

会が終わりましたら、詳しくもう一度お伺いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

依田委員：よろしくお願いいたします。

石垣部会長：申し訳ないですが、個別の苦情は控えていただいています。多分、それはそれで個別で挙げるチャンネルがあると思いますので。今日はせっかく情報がいったので、それは解決いただければと思います。

先ほどこっちとアプリの話もあったんですが、いわゆる『かたつむりのおやくそく』の認知度を上げたいというときに、年齢層ごとに何歳から何歳の人にもっと認知度を上げたいとかその辺の解析も含めて、それはアプリが効果的であるならそれを使ってということもやってですね。

費用対効果の話もありましたけれども、いや、もうちょっと紙で家庭へ、あるいはもうちょっと高齢の方も含めてということが重要なんだということであれば、やはり頑張って配付をもう一度検討するとか、そういうターゲットを見ながらされるのがいいのかと思います。

アプリは、確か板橋区の公式のアプリみたいながありますよね。あそこにごみの情報というのは載っていないのでしょうか。

新井清掃リサイクル課長：今現在は、板橋の公式アプリの中には入っていない状態でございます。私どもで検討しているのはその中に入れるケースと、単独でごみのアプリということで1個アイコンを作って、そのままダイレクトに入れる両方を考えているところでございます。

こちらのほうのアンケートですとか、そういった中でも単身の世帯のアパートでお住いの方も多いというようなこともございましたので、そういう若者の単身世帯の皆さま方をターゲットに今のところは考えているところです。

ただ、やはり財政当局につきましてはそういうメンバーと全戸配付ということでは重複する部分があるだろうということも検討せよという状況です。

石垣部会長：知らない方がいる一方で、一度配られたところにまた配ってほしいというようなことが、『かたつむり』ファンの方がいらっしゃるわけで、そういうところをうまく考えていただいて、認知度もそうですけれども知っているというだけではなくてその内容をもっと深く知ってもらうというのが重要です。周知というのはそっちのほう重要ですから、考えていただきたいと思います。

他はいかがでしょうか。決して無理にということではなくて、もう皆さんは非常に満足していただいて。

ちょっと今日は隣もやっていますので、隣のマイクの音が入ってきているというのものもあるかもしれません。

一つだけ私のほうから、15 ページを開いていただくと11 ということで「本区の資源リサイクルフロー」があって、収集のところはいいと思うんです。それは資源回収業者・再生利用業者までいっているところというのは把握されていると思うんですけれども、その右の紙として再生、金属回収とかそういう情報というのは、区としては一般的な情報として、あるいはこの業者さんたちはそういうことを主な業としてやっているということを書かれているのか、それともきっちり確認されているのかということをお聞きしたいんですけれども。

というのは多くの場合、この業者さんのところまでしか情報を追っていないということが多く

て、きちんとやっていけばいいのですけれども中にはその先で区も知らない間に悪さをしていると。

不法投棄、あるいは本来はリサイクルしてもらっているはずが別の最終処分をしてもらっちゃってという事例があったりするので、きちんと把握はされているのかというところのご質問です。

新井清掃リサイクル課長：今、この上の部分の 2 つ、集積所回収、拠点回収は網掛けがございます。網掛けのところにつきましては区のほうで回収・中間処理を行っているものです。

こちらのほうにつきましては一般的な内容等も含めて、このようなかたちで実際は行われているであろうと考えているところです。

また、下の部分の集団回収・オフィスリサイクル・商店街リサイクル、こちらにつきましては独自でやっているという面もございますので、本当にこの部分につきましては一般的な流れということで記載をしているものでございます。

ペットボトルですとか、そういうものに関してはうちがきっちり資源ということで私どもからの排出先も協会のほうに出すのと、独自ルートということで区のほうで独自に出しているルートと 2 つあるわけでございます。

そちらのほうにつきましては間違いなく把握をしているところでございますが、それ以外の部分につきましてはなかなか厳しい部分もあるということです。

石垣部会長：計画の中でそこまできちぎちに記載せよということを言っているわけではなく区のほうとして一応きちんとリスク管理というか、そういう観点からも時々はそういう確認をしていたほうがいいかという程度でございます。

清掃リサイクル課長：ありがとうございます。

石垣部会長：他はいかがでございましょうか。

田坂委員：ごみの問題につきましては、私どもはつい最近まで東京都清掃局の工事を随分請け負わせてもらったことがあるんですが、工事完成する度に膨大な書類の提出を要求される。

それはどこに収納されているか分かりませんが、ちょっとした 2,000～3,000 万の仕事でも、キングジムのファイル 15 冊ぐらいの書類を出させるわけですね。そういうのは、処分はどうするんですかね。あれはものすごい量だと思いますよ。

石垣部会長：書類の処分ということですか。

田坂委員：ですから、そういうところも考えてもらわないと、ごみというのはそういうものもあるわけです。例えば、卑近な例で申し訳ないですが、これは一遍読んだら捨てるだけ。そうすると、これは全部ごみになる。

小泉委員：それはしょうがない。

手島委員：それはしょうがない。コピー用紙はほとんど再生されています。

田坂委員：大変もったいないと思うのですが、何かうまい手はないもんですか。

石垣部会長：いろいろ、もしご意見があれば言っていただいてもいいんですけども。

例えば、区全体では資料の電子化ですとか、もちろんこれは再生紙を使っていると思うんですけども、その必要があるのかとは思っています。私が出るような他の会議で、ほとんどの場合はもう今は資料が電子化されていてこういう紙資料は配付されないんです。

ただ、一応こういう会議に関しては紙のほうがいいという方が今のところは多いようなので、紙を用意されているんだと理解しています。

ですので、今のご意見で、いや、紙は減らしたほうがいいというご意見が増えてきたら、こういう紙の資料というのは少しずつ減っていくのだらうと理解しています。補足があれば。

新井清掃リサイクル課長：板橋区におきまして今は電子決済ということで、決済は今までは紙につづりまして下に書類関係を付けて回していたところでございます。それを電子決済ということでほとんどペーパーレスに近いようなかたちで回すものもあれば、やはり図面ですとかそういうものはもう全然入らないとなるとやっぱり付けるわけですが、できるだけ紙を減らしています。

私どものほうの一番の最高の会議ということでは庁議というのがございます。庁議も今現在はもうペーパーレスに近いようなかたちでタブレットを見ながら説明をしたりというような状況がでございます。

ですからそれぞれ、ここの会議につきましてもタブレットですとかそういうものがあれば、そういうのになるかもしれないのですが、まだそこまではちょっと厳しいのかなと。やっぱりどちらかというと実際、私も正直なところ紙のほうが見やすいところがあるんですが、それじゃあいけないんだというふうに思っているところです。そういうことで、板橋は随時進めているところです。

田坂委員：これは東京都に一言申したいわけなんです、随分清掃局のほうからその処理は必要ですかというキャンペーンをやっていたわけ。そのくせに自分たちの工場の整備についてはあれだけたくさん書類を出させて、それはどこで収納したのか。

小泉委員：それは説明責任だから、しょうがない。

新井清掃リサイクル課長：すみません。私が直接は答えられないかもしれないんですが、そういう事実はあるかと思えますし、私どもも区としましてはそういうのは十分注意しながら必要最小限ということでやっていきたいと思うところでございます。ありがとうございます。

田坂委員：完成図書というのは、後は誰がどんなふうに見るのか分らないです。2,000 万ぐらいの工事でキングジムのファイルが 15 冊です。

石垣部会長：ただ、せっかくですので、今日の会議資料はまたすぐ捨てずにお持ちいただいて一度家に帰って読んでいただいて、また準備していただくといいかと思います。

田坂委員：持っています。

石垣部会長：他はよろしいでしょうか。今日は一応会議時間を 3 時半までということで設定だったのですけれども、特にこれ以上ご意見がないようでしたら本日のこの幾つかご意見をいただいたものをまた情報を追加、修正するなりということで反映させていただければと思います。

それでは、事務局のほうにお返ししたいと思います。

田坂委員：ただ、申し上げたいです。わが東京は 15 世紀あたりからごみを積み立ててできた町ですから、結局そういうことなのかと。

石垣部会長：どうぞ。

五十嵐資源環境部長：事務局の前に一言幹事のほうから、すみません。

本日はありがとうございます。幹事の資源環境部長なんですけれども、今日は会場のほうが隣にマイクを使っている関係で所々聞こえなかったりすることがあったと思います。申し訳ありませんでした。

こちらの部会のほうは残りがあと 1 回ということで、次はかなり素案ということで完成版に近いものを最後に見ていただくような部会になるかと思っています。

本日は 5 章のところを主に追加してご説明をさせていただきました。それぞれ丸が付いてこういうことをやっていくという見出しがずらっと並んでいるのですが、じゃあ 2025 年までに何をどれだけやるのかというのは、なかなかそれを見ただけではイメージしづらいかもしれません。

少し PDCA のチェックの仕組み、毎年それぞれ事業実績を報告する機会を設けて、その都度適宜 4 年ぐらいを目途に修正を入れたいと思うのですが、

この計画についてもちゃんと検証しながらローリングをしていくというようなことも少し付け加えさせていただいて、最終版で今後はこうやっていきますということをもうちょっと分かるようにしていければと思っておるところでございます。

また、次の回でご意見をいただければと思います。ありがとうございます。

3. 閉会

清掃リサイクル課長：それでは私のほうからは、本日の審議内容につきましてご意見等がございましたら来週、10 月 10 日（火曜日）までに事務局のほうにご一報いただければと思っております。

その上で事務局のほうで調整させていただきまして、計画素案へ反映させていきたいと考えているところです。ただ今、部長のほうからも話がございました PDCA のところにつきましては最

後の部分になるかと思いますが、きちんと付け加えさせていただく。

その他にも本日いただいたご意見等で、反映できるところにつきましては反映させていくというところで考えているところでございます。その他にもご意見がありましたら、10日（火曜日）までをお願いしたいと存じます。

なお、次回の部会につきましては11月22日（水曜日）午前中に場所が取れなくて申し訳ございません。私どもはグリーンホールというのがこの先でございます。正面玄関を出た、デニーズの脇をずっと入っていったほぼ突き当たりのところ、板橋第一中学校の隣にグリーンホールというのがございます。こちらの2階ホールで第6回清掃・リサイクル部会を開催させていただきたいと思っております。

部会の内容につきましては今申し上げました計画素案、今度は最後の素案ということでこちらのほうのご審議をいただきたいと思うところでございます。

何回も言って申し訳ございませんが11月22日（水曜日）午前中ということで、場所がグリーンホールという区役所の本庁舎とは違うところでございます。その辺で、また事前にご案内等は差し上げたいと考えております。

私のほうは以上でございます。こちらは次回の第6回の清掃・リサイクル部会、これが最後になります。ご多忙とは存じますが、ご出席のほうをどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第5回清掃・リサイクル部会を閉会とさせていただきたいと思えます。本日はどうもありがとうございました。